

神戸インバウンド戦略 2.0

神戸市・(一財)神戸観光局

新型コロナウイルス感染拡大によって消失したインバウンドは、2022年10月11日から1日当たりの入国者数の上限撤廃、訪日外国人旅行者に対するビザ免除、個人旅行解禁により、本格再開のスタートが切られた。同年9月18日の「関西3空港懇談会」にて、神戸空港は2030年をめどに国際定期便を就航させることが決まり、大阪・関西万博が開かれる2025年に国際チャーター便が就航する見込みである。2025年→2030年を見据えた本格的なインバウンド回復に向けて戦略を磨き上げ、2025年に外国人延べ宿泊者数100万人を目指す。

方針

「第2の開港」となる神戸空港国際化に向け、ウォーターフロントエリアの再開発、都心・三宮再整備、須磨海浜公園の再整備といった都市の魅力向上に加え、神戸の持つ歴史や文化等を背景としたコンテンツを磨き上げた体験メニューや、近隣エリアとも連携した周遊プランの造成、インバウンド誘客に係るWEB・リアルプロモーション、高いおもてなし満足度の獲得に取り組む。

3つの視点

①コンテンツ	②プロモーション	③基盤整備
神戸の持つ歴史や文化、自然、食、温泉など多様な魅力を背景にしたコンテンツを各市場向けに磨き上げる	マーケティングに基づき、SNSを中心としたWEBプロモや、海外現地におけるリアルプロモにて多彩な神戸の魅力を発信	公共交通インフラの整備、キャッシュレス化やオンデマンド化、海や空を活かした交通アクセス、ユニバーサルツーリズム等の環境整備



- 2022.9.18 関西3空港懇談会での合意内容
 国際線定期便発着回数 上限 1日40回
 国内線定期便発着回数 上限 1日80回
 →120回に
 (国内線は2025年新ターミナル完成後)
- 神戸空港 国際線定期便就航時の旅客数見込み(2022.10市試算)
 旅客数:年間約700万人
 内、国際線は約190万人
 (東アジア方面は約150万人、東南アジア方面は約40万人) 国内線は約510万人

〔観光庁〕
 2030年訪日外国人旅行者数
 目標 6,000万人(全国)

大阪IR計画
 年間来訪者数:約2,000万人
 年間経済効果:約1兆1,400億円

神戸空港国際化

2030年前後 神戸空港 駐機場21スポットへ拡充

神戸市役所本庁舎2号館再整備
 国際的ラグジュアリーホテル
 完成予定

JR三ノ宮駅 新ビル 完成予定
 三宮クロススクエア 第1段階完成予定

2027年12月頃 三宮新バスターミナルの第1期整備

2027.5.14-5.30 ワールドマスターズゲームズ2027関西 目標参加者数:国内3万人、海外2万人

2026.2.16 神戸空港開港20周年

2025.4.18 神戸空港サブターミナル供用開始(駐機場15スポットへ拡充)
 国際チャーター便の就航開始

2025.4.13-10.13 大阪・関西万博 (150か国、25国際機関参加)
 来場予定者数:約2,820万人
 経済波及効果:約2兆円

2024.6.1 須磨海浜公園再整備グランドオープン(神戸須磨シーワールド及びホテル開業)

2024.5.17-25 神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会(ユニバー記念競技場)

2024.4.26 神戸ポートタワー リニューアルオープン

2023.7.1-9.30 兵庫ディスティネーションキャンペーン

2023.4.7 東遊園地リニューアルオープン

2023.3月以降 訪日クルーズ受入再開

さらなるインバウンド獲得へ

国際チャーター便就航開始を踏まえたインバウンドの獲得

〔目標値〕
 外国人延べ宿泊者数:100万人
 (「神戸2025ビジョン」目標値
 外国人延べ宿泊者数:80万人から上方修正)

2025年

2019年インバウンド水準への回復

2024.6.1 須磨海浜公園再整備グランドオープン(神戸須磨シーワールド及びホテル開業)

2024.5.17-25 神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会(ユニバー記念競技場)

2024.4.26 神戸ポートタワー リニューアルオープン

2023.7.1-9.30 兵庫ディスティネーションキャンペーン

2023.4.7 東遊園地リニューアルオープン

2023.3月以降 訪日クルーズ受入再開

2022.10.11~ インバウンド本格再開スタート

ターゲット市場

欧米豪
 (戦略マーケット)

東アジア
 (リピートマーケット)

東南アジア
 (開拓マーケット)

主な入国経路	関西国際空港・羽田空港・成田国際空港・神戸港・(神戸空港)	関西国際空港・神戸港・(神戸空港)	関西国際空港・神戸港・(神戸空港)
狙い	ライフスタイルや歴史的背景に興味関心の高い欧米豪向けに、神戸のコンテンツを生かしたコト消費を充実させる。他国に比べ滞在期間が長く、一人あたりの旅行消費単価が高い欧米豪からの需要を取り込み、高い経済効果を狙う。	神戸のインバウンドにおける東アジアのシェアは全体の約7割を占め、リピート客の獲得を目指す。今後も東アジア市場は訪日客が大きく回復することが期待され、2025年の神戸空港国際化によるチャーター便就航につなげていく。	経済成長が著しい東南アジアは今後インバウンドのシェアの高まりが期待される。コロナ前も7日以上滞在が東アジアよりも多い傾向が見られたことや、2030年前後の神戸空港における国際線定期便の就航可能性も見据えていく。
アプローチ	(共通) ・滞在時間を延ばす夜朝コンテンツの充実 欧米豪向けの施策を展開することで、東アジア・東南アジア市場の旅行成熟度の高まりを見据えた将来需要につなげる。	(共通) ・スポーツ、アウトドア、ウェルネスコンテンツを活用した誘客促進 ・富裕層向けコンテンツの充実	(共通) ・スポーツ、アウトドア、ウェルネスコンテンツを活用した誘客促進 ・富裕層向けコンテンツの充実
(市場別)	・神戸ならではの特別な体験プログラムの造成 ・マンガ、アニメ等のコンテンツを用いたPR	・ショッピング、グルメ、エンタメ系の流行に合わせたPR ・SNS、WEBメディアを中心とした情報発信の強化	・現地エージェン特へのプロモーションの強化 ・ムスリムマーケット対応の基盤整備・情報発信

コロナ前 2019年データ

出典:(1)日本政府観光局「訪日外客統計」(国)、観光庁「訪日外国人消費動向調査」を基にした推計値(市)、(2)宿泊旅行統計〔※国内訳は従業者数10人以上の施設調査より〕(国)、観光予報プラットフォーム(市)

地域別	(1) 訪日外客者数		(2) 外国人延べ宿泊者数	
	全国	神戸市	全国	神戸市
欧米豪	4,131 (13.0%)	169 (12.2%)	18,530 (18.3%)	90 (12.2%)
東アジア	22,360 (70.1%)	969 (69.8%)	60,020 (59.2%)	627 (84.7%)
東南アジア	4,010 (12.6%)	186 (13.4%)	11,330 (11.2%)	21 (2.8%)
その他	1,381 (4.3%)	64 (4.6%)	11,430 (11.3%)	2 (0.3%)
計	31,882	1,388	101,310	740



画像: Google Map